

製鐵業獎勵法中左ノ通改正ス

第二條中「營業稅、營業收益稅及所得稅」ヲ「所得稅及營業收益稅」ニ改メ同條ニ左ノ二項ヲ加フ

前二項ノ製鐵事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ法人ニ在リテハ各事業年度、個人ニ在リテハ各年ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前二項ノ規定ヲ適用セズ但シ所得稅法第十九條又ハ營業收益稅法第八條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條中「營業稅、營業收益稅及所得稅」ヲ「所得稅及營業收益稅」ニ改ム

第七條中「本法ニ依リ營業稅、營業收益稅及所得稅ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニ對シ其ノ免除セラレタル部分ニ相當スル」ヲ「本法ニ依リ(第二條第三項但書ノ場合ヲ含ム)所得稅及營業收

益税ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニハ第二條第三項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル所得税及營業收益税ノ附加税ヲ除クノ外其ノ免除セラレタル事業ニ對シ又ハ其ノ免除セラレタル事業ニ屬スルニ改ム

附則第三項但書中「營業税及」ヲ削リ第四項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第二條第三項及第七條ノ規定ハ第三項ノ製鐵事業ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條第三項及第七條ノ改正規定ハ法人ニ付テハ本法施行ノ日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

大正九年法律第十二號第七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第七條ノ二 前條ノ規定ニ該當スル製造業ガ製鐵業獎勵法ニ定ムル能力ヲ有スル設備ヲ以テ

營ム製鐵事業ナルトキハ之ヲ所得稅法施行地ニ在ル製鐵事業ト看做シ製鐵業獎勵法第二條
第三項ノ金額ヲ計算ス

三

IMT 637

218

IMT 637

製鐵業獎勵法中改正法律案
右衆議院ノ議決ヲ經タル政府提出案本院ニ於
テ可決セリ依テ御執奏相成度議院法第三十一
條ニ依リ此段申進候也

昭和十一年五月二十三日

貴族院議長公爵近衛文麿



内閣總理大臣廣田弘毅殿



製鐵業獎勵法中改正法律案帝國

議會へ提出ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十一年五月一日

内閣總理大臣廣田弘毅



商甲 九

昭和十一年四月三十日

内閣書記官長



内閣書記官



昭和七年五月一日裁可



内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣

陸軍大臣

文部大臣

逓信大臣

内務大臣

海軍大臣

農林大臣

鐵道大臣

大藏大臣

司法大臣

商工大臣

拓務大臣

別紙内務大藏商工三大臣請議製鐵業
獎勵法中改正法律案

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ

去 司 局

通閣議決定帝國議會ニ提出セラレ可然ト認ム

法律案

呈案附箋一通

法律案

製鐵業獎勵法中改正法律案

右

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十一年五月四日衆議院

内閣總理大臣

内務大臣

大藏大臣

商工大臣

法制局商第一八号 四月廿七日

閣商第一一號

製鐵業獎勵法中改正、必要有之第
六十九回帝國議會ニ提出致度別紙法
律案及理由書ヲ具シ此段閣議ヲ請フ

昭和十一年四月廿五日

商工大臣小川郷太郎



大藏大臣馬場 銓一



内務大臣潮 惠之輔



商甲九

抄寫

内閣總理大臣廣田弘毅殿

(大塚納)

IMT 637

225

製鐵業獎勵法中改正法律案

製鐵業獎勵法中左ノ通改正ス

第二條中「營業稅、營業收益稅及所得稅」ヲ「所得稅及營業收益稅」ニ改メ同條ニ左ノ二項ヲ加フ

前二項ノ製鐵事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ法人ニ在リテハ各事業年度、個人ニ在リテハ各年ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前二項ノ規定ヲ適用セズ但シ所得稅法第十九條又ハ營業收益稅法第八條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條中「營業稅、營業收益稅及所得稅」ヲ「所得稅及營業收益稅」

ニ改ム

第七條中「本法ニ依リ營業稅、營業收益稅及所得稅ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニ對シ其ノ免除セラレタル部分ニ相當スル」ヲ「本法ニ依リ（第二條第三項但書ノ場合ヲ含ム）所得稅及營業收益稅ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニ對シ、第二條第三項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル所得稅及營業收益稅ノ附加稅ヲ除クノ外其ノ免除セラレタル事業ニ屬スル」ニ改ム

附則第三項但書中「營業稅及」ヲ削リ第四項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
 第二條第三項及第七條ノ規定ハ第三項ノ製鐵事業ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條第三項及第七條ノ改正規定ハ法人ニ付テハ本法施行ノ日以後終了スル事業年度分ヨリ、
、
、
、
、
、
、
、
、
、
之ヲ適用ス

大正九年法律第十二號第七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第七條ノ二 前條ノ規定ニ該當スル製造業ガ製鐵業獎勵法ニ定ムル能力ヲ有スル設備ヲ以テ營ム製鐵事業ナルトキハ之ヲ所得稅法施行地ニ在ル製鐵事業ト看做シ製鐵業獎勵法第二條第三項ノ金額ヲ計算ス

第二條第三項及第七條ノ改正規定ハ法人ニ付テハ本法施行ノ日以後終

個人ニ付テハ昭和十一年分ヨリ之ヲ適用ス

大正九年法律第十二號第七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第七條ノ二 前條ノ規定ニ該當スル製造業ガ製鐵業獎勵法ニ定ムル能

力ヲ有スル設備ヲ以テ營ム製鐵事業ナルトキハ之ヲ所得稅法施行地

ニ在ル製鐵事業ト看做シ製鐵業獎勵法第二條第三項ノ金額ヲ計算ス

製鐵業獎勵法中改正法律案理由書

本邦製鐵業ノ現況ニ鑑ミ製鐵業獎勵法ニ依ル所得稅、營業收益稅及地方稅ノ免除ニ關シ全部免除ノ現行制度ヲ改メ一定限度ヲ超ユル收益ニ對シ所得稅及營業收益稅並ニ其ノ附加稅ヲ課スルヲ得ルコトトスル爲製鐵業獎勵法中改正ヲ要スルモノアリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

商
工
省

昭和拾壹年四月卅日 傳

參照

●製鐵業獎勵法

大正十五年三月三十一日
法律第四十九號
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル製鐵業獎勵法改正

法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
(編理、内務、大藏、
商工大臣副署)

製鐵業獎勵法

第一條 一ノ場所ニ於テ一年三萬五千圓以上ノ製鐵能力及一年三萬五千圓以上ノ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ以テ營業ム製鐵事業ハ土地收用法第二條ノ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業トシ同法ヲ適用ス

第二條 主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間内ニ前條ニ規定スル設備ヲ新設シタル製鐵事業者ニハ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ十五年間其ノ設備ヲ以テ營業ム製鐵事業ニ付營業稅、營業收益稅及所得稅ヲ免除ス

前項ノ製鐵事業者其ノ設備完成前其ノ設備ノ一部ヲ以テ製鐵事業ヲ營業ム場合ニ於テモ其ノ事業ニ付營業稅、營業收益稅及所得稅ヲ免除ス但シ前項ノ規定ニ依ル期間内ニ設備ヲ完成セザルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條 第一條ノ規定ニ該當セザル設備ヲ以テ製鐵事業ヲ營業ム者主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間内ニ第一條ノ規定ニ該當スルニ至ルヘキ設備ヲ増設シタルトキハ其ノ増設シタル設備ヲ以テ營業ム製鐵事業ニ付前條ノ規定ヲ準用ス

第一條ニ規定スル設備ヲ以テ製鐵事業ヲ營業ム者作業上必要ナル場合ニ於テ主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間内ニ其ノ場所ニ於テ製鐵又ハ製鋼ノ設備ヲ増設シタルトキ亦前項ニ同シ

第四條 主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間内ニ一ノ場所ニ於テ一年五千二百五十圓以上ノ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ新設シタル製鋼品又ハ鑄鋼品製造事業者ニ付テハ第二條ノ規定ヲ準用ス

主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間内ニ一ノ場所ニ於テ一年二千五百圓以上ノ製鐵能力及ハ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ新設シタル低價製鐵製造事業者、坩堝製鋼事業者及電氣製鐵事業者ニ付亦前項ニ同シ

第五條 第一條乃至前條ニ規定スル製鐵事業ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 製鐵ノ事業ヲ繼續スル者又ハ其ノ事業ヲ繼續スルモノト認ムヘキ事實アル者前事業者カ本法ニ依ル營業稅、營業收益稅及所得稅免除期間内ニ在ルトキハ其ノ期間ヲ繼承ス

國方前項ノ前事業者ナル場合ニ於テ其ノ事業ガ第二條乃至第四條ノ製鐵事業ニ相當スルモノナルトキハ之ヲ本法ニ依リ營業稅、營業收益稅及所得稅ノ免除ヲ受ケル製鐵事業ト看做ス

第七條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準
スヘキモ、ハ本法ニ依リ營業稅、營業收益
稅及所得稅ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニ
對シ其ノ免除セラレタル部分ニ相當スル資
本金額、從業者、營業用ノ工作物若ハ物件、
使用動力又ハ收入ヲ標準トシテ課稅スルコ
トヲ得ス但シ市町村其ノ他之ニ準スヘキモ
ノニシテ特別ノ事情ニ基キ主務官廳ノ認可
ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 本法ニ依リ認可ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスルトキハ主務官
廳ノ認可ヲ受ケヘシ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ土地收用法ノ適用ヲ受ケ又ハ輸入稅ノ免除ヲ受ケルコト
ヲ得ヘキ製鐵事業ニシテ第一條ノ規定ニ該當セザルモノニ付テハ本法施行
後十年間仍從前ノ例ニ依ル

本法施行ノ際現ニ營業稅及所得稅ノ免除ヲ受ケルコトヲ得ヘキ製鐵事業ニ
付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ從前ノ規定ニ於テ開業ノ年又ハ能力增加ノ年
及其ノ翌年ヨリ十年間トアルハ之ヲ開業ノ年又ハ能力增加ノ年及其ノ翌年
ヨリ十五年間(其ノ十五年ノ期間ハ昭和十年迄ニ滿了スルモノニ在リテハ
昭和十一年迄)トシ營業稅トアルハ營業稅及營業收益稅トス

(大正十五年勅令第五十七號ヲ
以テ同年四月十日ヨリ施行)

半紙罫紙(十行全)(白井納)

IMT 637

230

TEO TMI

一 陸軍部官制及陸軍官制施行細則
陸軍部官制及陸軍官制施行細則 陸軍部官制及陸軍官制施行細則

十尺

附則(昭和九年法律第二十號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際現ニ第八條ノ規定ニ依リ獎勵
金ノ交付ヲ受クルコトヲ得ベキ製鐵事業者
ガ本法施行前ニ製造シタル鉄鐵ノ獎勵金ニ
付テハ仍従前ノ例ニ依ル
本法施行前第八條ノ規定ニ依リ獎勵金ノ交
付ヲ受ケタル者ニ付テハ仍従前ノ第十條ノ
規定ヲ適用ス

昭和九年勅令第二十號
昭和九年二月一日ヨリ施行

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

参照

所得税法ノ施行ニ關スル法律

大正九年七月
法律第十二號
(總務省)

第七條 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於テ所得税ヲ免除スル各當該地ノ製造業ヨリ生スル所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得税法ニ依ル所得稅ヲ免除ス

第八條 相續稅法施行地ヨリ朝鮮ニ住所又ハ船籍ヲ轉シタルモノニ付テハ相續稅法第二條第四項ノ規定ヲ適用セス

中 華 稅 務 會 社 代 理 (白 告 白)

昭和十一年四月三十日
五、五、五、五、五

参照

○所得税法

大正九年五月
法律第十七号

第十九條 勅令ヲ以テ指定シタル重要物産ノ一
製造業ヲ營ム者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ
開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ業務ヨ
リ生スル所得ニ付所得税ヲ免除ス



ツ
 子
 種
 植
 業
 者
 の
 課
 税
 特
 別
 措置
 等
 関
 係
 の
 法律
 第
 十
 七
 号
 等
 の
 規定
 に
 依
 り
 課
 税
 される
 こと
 となる
 こと
 となる
 こと
 となる
 こと
 となる

参考

○ 営業収益税法

大正八年三月
 法律第十七号

第八條 勅令ヲ以テ指定スル重要物産ノ製造業ヲ営ム者ニハ命令ノ定ムル
 所ニ依リ用業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ営業ヨリ生スル純益
 ニ付營業収益税ヲ免除ス

製鐵業獎勵法中改正法律案

IMT 637

235

製鐵業獎勵法中左ノ通改正ス

第二條中「營業稅、營業收益稅及所得稅」ヲ「所得稅及營業收益稅」ニ改メ同條ニ左ノ二項ヲ加フ

前二項ノ製鐵事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ法人ニ在リテハ各事業年度、個人ニ在リテハ

各年ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額

ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前二項ノ規定ヲ適用セズ但シ所得稅法第十九條又ハ營業

收益稅法第八條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條中「營業稅、營業收益稅及所得稅」ヲ「所得稅及營業收益稅」ニ改ム

第七條中「本法ニ依リ營業稅、營業收益稅及所得稅ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニ對シ其ノ免

除セラレタル部分ニ相當スル」ヲ「本法ニ依リ(第二條第三項但書ノ場合ヲ含ム)所得稅及營業收

益税ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニハ第二條第三項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル所得税及營業收益税ノ附加税ヲ除クノ外其ノ免除セラレタル事業ニ對シ又ハ其ノ免除セラレタル事業ニ屬スルニ改ム

附則第三項但書中「營業税及」ヲ削リ第四項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
第二條第三項及第七條ノ規定ハ第三項ノ製鐵事業ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條第三項及第七條ノ改正規定ハ法人ニ付テハ本法施行ノ日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

大正九年法律第十二號第七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第七條ノ二 前條ノ規定ニ該當スル製造業ガ製鐵業獎勵法ニ定ムル能力ヲ有スル設備ヲ以テ

營ム製鐵事業ナルトキハ之ヲ所得稅法施行地ニ在ル製鐵事業ト看做シ製鐵業獎勵法第二條
第三項ノ金額ヲ計算ス

三

IMT 637

238

IMT 637

CEA 1947



商甲一七

昭和十一年五月二十八日

内閣書記官長 藤田

内閣書記官 佐野

昭和十一年五月二十八日

佐野

内閣總理大臣 齋藤

法制局長官



外務大臣

齋藤

陸軍大臣

齋藤

文部大臣

齋藤

逓信大臣

齋藤

内務大臣

齋藤

海軍大臣

齋藤

農林大臣

齋藤

鐵道大臣

齋藤

大藏大臣

齋藤

司法大臣

齋藤

商工大臣

齋藤

拓務大臣

齋藤

別紙大藏商工兩大臣請議昭和十一年法律第三十二號

製鐵業獎勵法中改正法律施行期日ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ

去 司 局

通閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

朕昭和十一年法律第三十二號製衣職業獎勵法中改正法律施行期日、件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十一年六月六日

内閣總理大臣
大藏大臣

商工大臣

呈案附箋一通

去
司

川島

法制局商一六号 五月廿八日

昭和十一年法律第三十二號 裏録書并下勵法
中改正法律、施行期日ヲ定ムル為勅令制
定、必要有之別紙勅令案及理由書ヲ具
シ此段閣議ヲ請ス

昭和十一年五月廿八日

商工大臣小川郷太郎

大藏大臣馬場銓一



昭和十一年五月二十

内閣

本件法律ノ施行期
トハ公布ノ手續上
スルコ

商甲一七

商

一

商

川島

法制局商第一六号 五月廿八日

昭和十一年五月二十八日

内閣官房總務課

本件法律ノ施行期日ヲ六月一日トスルコ

トハ公布ノ手續上困難ナリ

昭和十一年法律第三十二號製鐵業獎勵法
中改正法律、施行期日ヲ定ムル爲勅令制
定、必要有之別紙勅令案及理由書ヲ具
シ此段閣議ヲ請ス

昭和十一年五月廿八日

商工大臣小川郷太郎

大藏大臣馬場銓一



商甲一七

商二二

内閣總理大臣廣田弘毅殿

商
工
省

(大塚納)

IMT 637

244

勅令第百五號

昭和十一年法律第三十二號ハ昭和十一年
六月十五日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年六月十五日

商工省

理由書

昭和十一年法律第三十二號施行、爲同法附
則第一項、規定ニ基キ本令ヲ制定スル、必
要アルニ由ル

参照

製鐵業獎勵法中改正法律

昭和十一年五月
法律第三十二號
總理大臣
內務省
商工
大臣
副署



製鐵業獎勵法中左ノ通改正ス

第二條中「營業稅、營業收益稅及所得稅」ヲ「所得稅及營業收益稅」ニ改メ同條ニ左ノ二項ヲ加フ

前二項ノ製鐵事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ法人ニ在リテハ各事業年度、個人ニ在リテハ各年ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前二項ノ規定ヲ適用セズ但シ所得稅法第十九條又ハ營業收益稅法第八條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條中「營業稅、營業收益稅及所得稅」ヲ「所得稅及營業收益稅」ニ改ム

第七條中「本法ニ依リ營業稅、營業收益稅及所得稅ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニ對シ其ノ免除セラレタル部分ニ相當スル」ヲ「本法ニ依リ(第二條第三項但書ノ場合ヲ含ム)所得稅及營業收

益税ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニハ第二條第三項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル所得税及營業收益税ノ附加税ヲ除クノ外其ノ免除セラレタル事業ニ對シ又ハ其ノ免除セラレタル事業ニ屬スルニ改ム

附則第三項但書中「營業税及」ヲ削リ第四項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第二條第三項及第七條ノ規定ハ第三項ノ製鐵事業ニ付之ヲ準用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條第三項及第七條ノ改正規定ハ法人ニ付テハ本法施行ノ日以後終了スル事業年度分ヨリ

之ヲ適用ス

大正九年法律第十二號第七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第七條ノ二 前條ノ規定ニ該當スル製造業ガ製鐵業獎勵法ニ定ムル能力ヲ有スル設備ヲ以テ

營ム製鐵事業ナルトキハ之ヲ所得稅法施行地ニ在ル製鐵事業ト看做シ製鐵業獎勵法第二條
第三項ノ金額ヲ計算ス

三

濟

高甲 一八

昭和十一年五月二十八日

内閣書記官長



内閣書記官

昭和十一年五月三十日
昭和十一年六月八日

内閣總理大臣 齋

法制局長官



外務大臣 齋

陸軍大臣

西

文部大臣

子

遞信大臣

辰

内務大臣

五

海軍大臣

五

農林大臣

五

鐵道大臣

也

大藏大臣

經

司法大臣

也

商工大臣

辰

拓務大臣

壺

別紙大藏商工兩大臣請議製鐵業

將獎勵法施行令中改正ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ

法 司 局

通閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

朕製職業獎勵法施行令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十一年六月六日

内閣總理大臣

大藏大臣

商工大臣

呈案附箋ノ通

法
制
司

川島

法制局商一七号 五月廿八日

製鐵業獎勵法施行令中改正、必要有
之別紙勅令案及理由書ヲ具シ此段
閣議ヲ請フ

昭和十一年五月廿八日

商工大臣小川郷太郎



大藏大臣馬場銓一



内閣總理大臣廣田弘毅殿

商甲二八

商工省

榊島

川島

勅令第百六號

製鐵業獎勵法施行令中左ノ通改正ス

第三條 製鐵業獎勵法第二條第三項ノ法

人ノ各事業年度ノ資本金額ハ各月末ニ
於ケル拂込株主金額又ハ出資金額及積立

金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス

前項ニ於テ積立金額ト稱スルハ積立金
其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ法人ノ所
得中其ノ留保シタル金額ヲ謂フ

第四條 前條ノ場合ニ於テ所得税及

營業收益税、免除ヲ受クル製鐵事業ト
其ノ他、事業トヲ營ム法人、資本金額
ハ總資産價額ニ對スル當該製鐵事業ヨ
リ生ズル所得又ハ純益ノ基本タル資産
價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘ジ之ヲ計
算ス

前項ノ場合ニ於テ資産價額ノ割合ニ依
ルヲ不適當トスルトキハ收入金^{割合}又ハ所
得若ハ純益ノ割合其ノ他適當ナル方法
ニ依リ之ヲ計算ス

第五條 製鐵業獎勵法第二條第三項、個人、各年、資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル固定資本及運轉資本、月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス但シ所得税法第十四條第一項第六號但書又ハ營業收益税法第六條第一項但書、規定ニ依リ所得又ハ純益ヲ算出スル場合ニ於テハ其、所得又ハ純益、算出當時、現況ニ依リ資本金額ヲ計算ス

前項、固定資本ハ直接ニ製鐵事業、用

ニ供スル土地、家屋其他、工作物、船舶、
機械、器具等、價額ニ依リ之ヲ計算ス
前條ノ規定ハ個人ノ資本金額ノ計算ニ
付之ヲ準用ス

第六條 製鐵業獎勵法第二條第三項ノ資
本金額ニ對スル年百分ノ十ノ割合ノ金
額ハ法人ニ在リテハ當該事業年度ノ月
數、個人ニ在リテハ其ノ年ノ營業ノ期
間ノ月數ヲ資本金額ニ乘ジ之ヲ十二分
シタル金額ニ百分ノ十ヲ乘ジテ之ヲ計

算ス

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月
未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ一月
トス

第六條ノ所得税免除ヲ受ケントスル者
ハ所得税法第二十四條又ハ第二十五條
ノ規定ニ依リ所得ヲ申告スルトキ製鐵
業獎勵法第二條ノ規定ニ依リ計算シタ
ル免除ヲ受クル所得及資本金額ノ明細
書ヲ添附シ其ノ旨所轄稅務署ニ申請ス

べシ

前項ノ場合ニ於テ所得税ノ免除ヲ受ク
ル製鐵事業ヨリ生ズル所得ト其ノ他ノ
所得トヲ有スルトキハ之ヲ區別シタル
計算書ヲ添附スベシ

第六條ノ三

營業收益税ノ免除ヲ受ケン

トスル者ハ營業收益税法第十一條又ハ

第十二條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ申告

スルトキ製鐵業奨励法第二條ノ規定ニ

依リ計算シタル免除ヲ受クル純益及資

(大塚納)

本金額、明細書ヲ添附シ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

前項ノ場合ニ於テ營業收益稅、免除ヲ受クル製鐵事業ヨリ生ズル純益ト其ノ他、純益トヲ有スルトキハ之ヲ區別シタル計算書ヲ添附スベシ

第十四條第一項中「營業稅、營業收益稅及所得稅」ヲ「所得稅及營業收益稅」ニ改ム

附則

本令ハ昭和十一年法律第三十二號施行ノ
日ヨリ之ヲ施行ス

(大塚納)

理由書

製鐵業獎勵法、改正ニ伴ヒ製鐵業獎勵法
施行令中改正、必要アルニ由ル

昭和十一年十月十日

鐵道入道 齋藤本誌吉

昭和拾壹年五月廿八日作成

參照

製鐵業獎勵法

大正十五年三月
法律第四十九號

(總理內務大臣藏、
商工大臣副署)

第二條 主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間内ニ前條ニ規定スル設備ヲ新設シタル製鐵事業者ニハ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ十五年間其ノ設備ヲ以テ營ム製鐵事業ニ付營業稅、營業收益稅及所得稅ヲ免除ス

前項ノ製鐵事業者其ノ設備完成前其ノ設備ノ一部ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム場合ニ於テモ其ノ事業ニ付營業稅、營業收益稅及所得稅ヲ免除ス但シ前項ノ規定ニ依ル期間内ニ設備ヲ完成セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

参照

製鐵業獎勵法中改正法律案

製鐵業獎勵法中左ノ通改正ス

第二條中「營業稅、營業收益稅及所得稅」ヲ「所得稅及營業收益稅」ニ改メ同條ニ左ノ二項ヲ加フ

前二項ノ製鐵事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ法人ニ在リテハ各事業年度、個人ニ在リテハ

各年ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額

ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前二項ノ規定ヲ適用セズ但シ所得稅法第十九條又ハ營業

收益稅法第八條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

日一十月十

第六十號

參照

製鐵業獎勵法施行令

大正十五年四月
勅令第五十八號

(總理大臣商
工大臣副署)

第三條 所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ所得稅法第二十四條又ハ第二十

五條ノ規定ニ依リ所得ヲ申告スルトキ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ免除ヲ受ケヘキ事業ヨリ生ズル所得ト其ノ他ノ所得ト

ノ存スルトキハ之ヲ區別シタル計算書ヲ添附スヘシ

第四條 營業稅又ハ營業收益稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ營業稅法第十三

條ノ規定ニ依リ營業名及課稅標準ヲ申告スルトキ又ハ營業收益稅法第十

一條若ハ第十二條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ申告スルトキ其ノ旨所轄稅務

署ニ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ免除ヲ受ケヘキ事業ト其ノ他ノ事業トノ存スルトキハ

之ヲ區別シタル内課書ヲ添附スヘシ

第十四條 商工大臣必要ト認ムルトキハ營業稅、營業收益稅及所得稅ノ免

除ヲ受ケムトスル者ニ對シ製鐵事業ニ關スル書類又ハ製鐵原料若ハ製品

ノ試料ノ提出ヲ命ジ又ハ當該官吏ヲシテ製鐵事業ニ關スル設備、帳簿其

ノ他ノ物件ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得輸入稅ノ免除ヲ受ケ又ハ受ケム

トスル者ニ對シ亦同シ

商工大臣必要ト認ムルトキハ獎勵金ノ交付ヲ受ケ又ハ受ケムトスル者ニ

對シ前項ノ書類又ハ試料ノ提出ヲ命ジ、當該官吏ヲシテ前項ノ検査ヲ爲

サシメ其ノ他必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第五條 削除
第六條 削除

昭和拾壹年五月廿八日作成

参照

所得税法

大正九年七月
法律第十一號

(總理大藏
大臣副署)

第十四條 第三種ノ所得ハ左ノ各號ノ規定ニ依リテ算

出スル所得トシテ本款ノ規定ニ依リテ算入

金額ノ計算ハ(第一項第一號乃至第五號中略)

六 前各號以外ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ

經費ヲ控除シタル金額但シ前年一月一日ヨリ引續

キ有シタルニ非サセ資産ノ營業又ハ職業ノ所得ニ

對シテ其ノ年額豫算年額

第二十四條 第一種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ命令ノ定ル所ニ依リ財産目錄、貸借對照表、損益計算書又ハ清算若ハ合併ニ關スル計算書並第四條乃至第十一條ノ規定ニ依リ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添附シ其ノ所得ヲ政府ニ申告スヘシ但本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ハ本法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ第一種ノ所得ニ付納稅ヲ課セラルヘキ法人ニ付其ノ所得ナキ場合ニ之ヲ準用ス

中紙野紙(十行全)(白井納)

内閣總理大臣 廣田

法制局長官 印

第二十五條 第三種ノ所得ニ付納税義務アル者ハ毎

年三月十五日迄ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ政府ニ申

告スヘシ

第十六條又ハ第十六條ノ三ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケルトス
ル者ハ前項ノ申告ト同時ニ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ申請
書ヲ提出スヘシ

参照

營業收益税法

大正十五年三月
法律第十一號

(總理大臣
大臣副署)

第六條 個人ノ純益ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費

ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ前年一月一日ヨリ引續キ爲シ

タルニ非サル營業ニ付テハ其ノ年ノ豫算ニ依リ計算ス

相續シタル營業ニ付テハ相續人カ引續キ之ヲ爲シタルモノト

看做シテ其ノ純益ヲ計算ス

資本利子税ヲ課セラルヘキ資本利子ハ之ヲ純益ニ算入セズ

第十一條 納稅義務アル法人ハ命令ニ定ムル所ニ依リ純益

金額ヲ政府ニ申告スヘシ
第十二條 納税義務アル個人ハ命令ノ定ル所ニ依リ毎年
三月十五日迄ニ純益金額ヲ政府ニ申告スヘシ

牛紙罫紙(十行全)(白井納)

IMT 637

271

780

IMT

内閣總理大臣 廣田
内閣書記官長 藤野

内閣書記官 横濱 稻田 三橋
佐藤

案 昭和七年十一月二十七日行

濟

外甲第三四號

案起 昭和十一年五月一日

裁可 昭和 年 月 日 施行

決定 昭和十一年五月一日 指令

內閣總理大臣 送

內閣書記官長 贈池

內閣書記官

外務大臣 送

陸軍大臣 送

文部大臣 送

遞信大臣 送

內務大臣 送

海軍大臣 送

農林大臣 送

鐵道大臣 送

大藏大臣 送

司法大臣 送

商工大臣 送

拓務大臣 送

別紙外務海軍農林三大臣請議北洋
漁業保護及警備ニ關スル件ニ相當

送

川島

川島

橋

佐野

儀下被認ニ付請議ノ通閣議決定相
成然ルベシ

指令案

北洋漁業ノ保護及警備ニ關スル件請

議ノ通

陸軍大臣
海軍大臣
農林大臣
逓信大臣
文部大臣
司法大臣
内務大臣
議官大臣

内閣總理大臣
印

内閣書記官
印

大正十一年五月十一日
大正十一年五月十一日
大正十一年五月十一日
大正十一年五月十一日
大正十一年五月十一日
大正十一年五月十一日
大正十一年五月十一日
大正十一年五月十一日

急

歐一機密第二五四號

昭和十一年四月三十日

外務大臣 有田 八郎

海軍大臣 永野 修身

農林大臣 島田 俊雄

内閣總理大臣 廣田 弘毅 殿



外甲三四

外務省

は(イ)

11.3

IMT 637

274

北洋漁業ノ保護及警備ニ關スル件

本年度北洋漁業ノ保護及警備ニ關シ左記ノ通特ニ閣議決定相成候様致度此段及稟請候也

記

我カ北洋漁業ハ「ソヴィエト」聯邦及之ニ近接スル方面ニ於テ操業セラレ既往ニ於テモ日「ソ」兩國間ニ諸種紛議ノ發生ヲ見タリ特ニ本年ハ關係條約ノ修正、滿洲國國境附近ノ諸事件等日「ソ」兩國間ニ機微ナル關係アリ傍ラ「ソヴィエト」聯邦ノ極東海軍力擴充ト相俟チ同方面ノ事端發生カ國交上ニ重大ナル影響ヲ及ホス虞アルニ付テハ關係帝國官憲ハ連絡ヲ密接ニシ當業者ノ指導及取締ヲ適正ニシ又案ニ「ソ」側ヲ刺戟スルヲ戒メ以テ紛議豫防ノ措置ヲ講スルニ努ムルト共ニ帝國ノ正當ナル權益ヲ確保シ帝國臣民ノ生命財産ヲ保護スルカ爲ニハ必要ナル兵力ヲ配置シ確固タル態度ヲ以テ警備スルヲ要スルモノト認ム仍テ北洋漁業ノ保護及警備竝ニ之ニ關聯スル取締

及連絡ハ左ノ要領ニ依ルコトトス

一 海岸及領海内（距岸三哩以内）ニ於ケル帝國臣民ノ保護及之ニ關
聯スル對「ソ」交渉ハ帝國領事之ヲ主管シ帝國軍艦ハ自衛上必要
ナル場合ノ外領海外ニ在リテ帝國領事ヲ支援スルモノトス

二 領海外ニ於ケル帝國臣民ノ保護ハ帝國軍艦之ヲ主管シ之ニ關スル
涉外交渉事件發生シタルトキハ帝國軍艦ハ其ノ交渉及解決方ヲ帝
國領事ニ移管ス但シ「ソ」側不法行爲ニ對シテハ必要ニ應シ帝國
軍艦實力ヲ以テ臨機處置スルモノトス

三 領海外ニ於ケル帝國當業者ノ取締ハ農林省官憲之ヲ主管シ特ニ「
ソ」聯邦領海侵犯防止ニ關シ嚴重取締ヲ勵行ス帝國軍艦ハ右取締
ニ關シ農林省官憲ト協力スルモノトス

は（イ）



二本博覽會ノ財源ニ関シテハ國庫及關係公共團體
 等ヨリ之ヲ援助スルノ外不得已場合ニハ適當ナル
 割増金附前賣入場券發行ノ方法ニヨルコト

商甲第三一號

起

昭和十一年八月二十日

裁可

昭和十一年八月二十日

決定

昭和十一年八月二十日

昭和十一年八月五日

内閣總理大臣

三

内閣書記官長

勝池

内閣書記官

川島

相

橋

外務大臣

三

陸軍大臣

五

文部大臣

重

逓信大臣

厚

内務大臣

五

海軍大臣

五

農林大臣

五

鐵道大臣

中

大藏大臣

五

司法大臣

五

商工大臣

五

拓務大臣

五

別紙商工大臣請議

日本萬國博覽會計畫實施要

内

閣

綱ニ關スル件

右閣議ニ供ス

指令案

日本萬國博覽會計畫實施要綱ニ關

スル件請議ノ通但シ要綱第二項ハ左記

ノ通トス

記

ニ本博覽會ノ財源ニ關シテハ國庫及關係公共

團體等ヨリ之ヲ援助スルノ外不得已場合ニ

11

八適當十九割増金附前賣入場券發行ノ
方法ニ依ルコト

内
閣

昭和十五年ヲ期シ帝都ヲ中心トシテ日本
萬國博覽會開催ノ計畫有之右ハ紀元
二千六百年記念事業ハ一トシテ適當ナル
モノト認メラルル處本年二月ノ紀元二千六百年
祝典準備委員會ノ決議ノ趣旨ニ鑑ミ之カ
實施ニ付テハ左記要綱ニ依ルモノヲ適當ト認ム
仍而此段閣議ヲ請フ

記

一 主催者ハ東京市其ノ他關係團體等ヲ以テ

組織スル日本萬國博覽會協會トシ政府ハ
之ニ對シ指導監督援助ヲ爲スコト

二、本博覽會ニ對シ其財源ヲ確保スル趣旨
ヲ以テ割増金附前賣入場券ヲ發行ヲ認

ムルコト

昭和十一年八月十九日

商工大臣 小川郷太郎



内閣總理大臣 廣田弘毅殿

組合員ニ買取スルコト
保證責
昭和十年三
限責任三
役有吉百

秘

以下参考

割増金附前賣入場券前賣方法要綱案

- (1) 發行總額 二千万圓以内
- (2) 割増金最高限度 十圓券ニ對シ三千圓以内
- (3) 前賣時期 昭和十二年四月ヨリ

(高工省案)

地

昭和十年三月二十一日通常

一、監事王明滿了ニ付昭和十年三月二十一日通常

一、主催者ハ東京市其ノ他關係団体等ヲ以テ組織スル日本萬國博覽會協會

トシ政府ハ之ニ對シ指導監督援助ヲ爲スコト

二、本博覽會ノ財源ニ關シテハ國庫及關係公共団体等ヨリ

ノ方法ヲ講ジタル上尙必要已ムヲ得ズシテ割増金附前賣入場券發行

ノ方法ヲ講ズル場合ニハ政府多年ノ射倖行為取締方針ニ準據シ其ノ具

体的方法ニ關シテハ關係各省協議決定スルコト

(内務省)

不
行

ス
外

援助
外
凡

不
行

ニ
コ
ル
コ
ト

参 考

内 務 省 案

- 一、割増金最高金額ハ三百圓程度トスルコト
- 一、發賣期間ハ開期前一年程度トスルコト

参考

日本萬國博覽會收支概算案

以下各二有控也

支出ノ部

一博覽會經費

二〇〇〇〇〇〇〇圓

收入ノ部

一割増金附前賣入場券發行實收入

一五〇〇〇〇〇〇圓

二關係府縣市ノ支出金及其ノ他ノ寄附金

二五〇〇〇〇〇〇圓

三協會繰入金

五〇〇〇〇〇〇圓

四場所使用料其ノ他ノ收入

二〇〇〇〇〇〇〇圓

計

二〇〇〇〇〇〇〇圓

(備考)

一別ニ東京市ニ於テ道路橋梁費約一二〇〇〇〇〇〇〇圓支出ノ見込

三割増金附前賣入場券發行實收入ハ發行總額ニ〇〇〇〇〇〇〇圓
ノ中發行諸經費五〇〇〇〇〇〇圓ヲ控除シタルモノトス

30,000

秘

昭和十一年二月七日

紀元二千六百年祝典準備委員會特別委員長 男爵阪谷芳郎

紀元二千六百年祝典準備委員會會長 岡田啓介 殿

特別委員ハ紀元二千六百年祝典其ノ他奉祝事業等準備要綱及之ニ基ク
具體的計畫ニ付慎重審議ノ結果今般(一)準備要綱(二)奉祝記念事業中日本
萬國博覽會ノ開催ニ關シ別紙ノ通議決致候條不取敢此段及報告候

紀元二千六百年祭典祝典其ノ他奉祝記念事業等準備要綱
紀元二千六百年祭典祝典其ノ他奉祝記念事業等ハ大體左記要綱ニ依リ計
畫實施スルモノトス

一 祭典祝典其ノ他奉祝記念事業等ハ大體左ノ六ノ區分ス

- (一) 宮中關係ノ祭典
- (二) 神宮竝官國幣社以下神社ノ祭典
- (三) 肇國創業ニ特殊關係アル神社ノ臨時ノ祭典
- (四) 大觀兵式、大觀艦式（又ハ艦隊ノ參列）
- (五) 國民的祝典

適當ノ時期ニ東京ニ於テ之ヲ行フコト之ト同時ニ各地方ニ於テモ適宜祝典
ヲ行フコト

(六) 奉祝記念事業

- (1) 橿原神宮ノ神域擴張
- (2) 日本萬國博覽會ノ開催

（ハ）其ノ他

右計畫以外地方ニ於テ行フ祝典其ノ他奉祝記念事業ハ本案ニ依ルモノト重複セズ且妥當適切ナラシムル様適宜指導スルモノトス

一 奉祝記念事業施行ノ爲財團法人紀元二千六百年奉祝會ヲ設立スルニ
コト

一 祝典ニ關スル事務及各種奉祝記念事業ニ關スル事項ノ統轄ノ事務ヲ掌ラシムル爲内閣總理大臣管理ノ下ニ紀元二千六百年祝典事務局ヲ設置スルコト

以上ノ要綱ニ基ク具體的計畫ハ緩急ニ應ジ順次決定シ實施ニ移スモノト
ス

希 望 決 議

肇國創業ニ特殊關係アル神社及功臣ニ對スル表敬ニ就キテハ特ニ重
キヲ置キ考慮スルコト

日本萬國博覽會ノ開催ニ關スル件

紀元二千六百年奉祝記念事業ノ一トシテ帝都ヲ中心トスル日本萬國博覽會ヲ開催スルヲ適當ト認ム

一、主催者

東京市又ハ日本萬國博覽會協會ヲ主催者トシ且政府ニ特別ノ職員ヲ置キ積極的ニ指導監督援助ヲ爲スコト

一、補助金

本博覽會ノ重要性ニ鑑ミ相當ノ補助金ヲ國及關係府縣市等ヨリ交付スルノ要アリ

一、割増金附前賣入場券

財源確保ノ必要上割増金附前賣入場券ヲ發行スルノ要アリ

紀元二千六百年奉祝記念事業ニ關スル件

(昭和十一年七月二十八日祝典評議委員會
特別委員會案)

紀元二千六百年奉祝記念事業ハ大体左記方針ニ依リ之ヲ實施スルヲ適當
ト認ム

第一 左ニ掲クル事業ヲ奉祝記念事業トシテ施行スルコト

一 橿原神宮境域畝傍山東北陵參道ノ擴張整備

二 神武天皇聖蹟ノ調査保存顯彰

三 御陵參拜道路ノ改良

四 日本萬國博覽會ノ開催

五 國史館ノ建設

六 日本文化大觀ノ編纂出版

第二 前項ノ奉祝記念事業ノ中日本萬國博覽會以外ノ事業ハ紀元二千六

百年奉祝會ニ於テ直接又ハ國、公共團體若ハ私設團體ニ委託シテ適宜
之ヲ施行スルコト

日本萬國博覽會事業ノ施行ニ付テハ別ニ之ヲ定ムルコト

第三 紀元二千六百年奉祝會ニ對シテハ國庫ヨリ相當ノ補助金ヲ交付シ
テ之ヲ助成スルト共ニ其ノ事務ノ執行ニ關シテハ政府ニ於テ特ニ指導
監督ニ遺憾ナキヤウ措置スルコト

紀元二千六百年奉祝會ノ收支概算

收入

一般寄附金

五〇〇〇〇〇〇

國庫補助金

五〇〇〇〇〇〇

計

一〇〇〇〇〇〇〇

圓

支出

橿原神宮境域及畝傍山

東北陵參道擴張整備費

二五〇〇〇〇〇

神武天皇聖蹟調查保存顯彰費

三〇〇〇〇〇〇

御陵參拜道路改良費

五〇〇〇〇〇〇

國史館建設費

四〇〇〇〇〇〇〇

日本文化大觀編纂出版費

一〇〇〇〇〇〇〇

豫備費

一七〇〇〇〇〇〇

計

一〇〇〇〇〇〇〇〇

(昭和十一年八月作成)

紀元二千六百年記念日本萬國博覽會參考資料

世界ニ於ケル主ナル萬國博覽會

會名	年次	會場坪數	建物坪數	入場者數	經費	
					收入	支出
巴奈馬太平洋萬國博覽會	一九一五年	九六〇〇〇坪	九二〇〇〇坪	一八八三〇〇〇	三三〇〇〇〇〇圓	二五九〇〇〇〇圓
巴里裝飾美術萬國博覽會	一九二五年	七六〇〇〇	一八〇〇〇			
米國獨立百五十年紀念費府萬國博覽會	一九二六年	一三三、〇〇〇	五七、〇〇〇	六五〇〇〇〇	五四〇〇〇〇〇	五四〇〇〇〇〇
白耳義獨立百年紀念リエ工業博覽會	一九三〇年	一九五〇〇〇		四〇〇〇〇〇		
進歩一世紀市俄古萬國博覽會	一九三三年	五一六〇〇〇	三八〇〇〇	二、七五七、〇〇〇	六、二一五、〇〇〇	五、三九六、〇〇〇

(備考) 經費ハ巴奈馬博、費府博ハ平價ニ依リ又進歩一世紀市俄古博
ハ三十弗百圓替トス

本邦ニ於ケル主ナル博覽會

名	年次	會場坪數	建物坪數	入場者數	收入	支出
第五回内國博覽會(大阪)	明治三十六年	一一四、〇〇〇坪	一七、〇〇〇坪	五、三〇五、二〇九	三〇七、〇四七圓	一一、二四八、八三三圓
東京勸業博覽會	同四十年	五二、〇〇〇	六、〇〇〇	六、五七四、二二二	六八七、六八九	一一、二六六、八一三
大正博覽會	大正三年	一二五、〇〇〇	八、〇〇〇	七、四六八、六一〇	七二三、四八五	一、六四七、八〇八
平和博覽會	同十一年	一一七、〇〇〇	一六、〇〇〇	一一、〇八一、三三六	三、八七九、八三〇	四、七七六、六八六

備考

明治四十五年政府經營ニ係ル日本萬國大博覽會開催計畫アリ
 右計畫ハ途中中止セラレタルガ其ノ規模概要ヲ見ルニ會場坪
 數三四〇、〇〇〇坪、建物坪數三〇、六〇〇坪經費一千萬圓
 ヲ豫定シタリ

紀元二千六百年記念日本萬國博覽會收支概算

支出之部

- 一、會場用地費
- 二、陳列館建築費
- 三、館外諸建築費
- 四、諸設備及裝飾費
- 五、雜工事費
- 六、電氣瓦斯水道料金
- 七、事務費
- 八、審査褒賞及出品調査費
- 九、儀式接待費
- 十、事業費
- 十一、廣告及宣傳費

一、	一〇〇〇、〇〇〇	圓
二、	四六二五、〇〇〇	
三、	三五一五、〇〇〇	
四、	一〇五〇、〇〇〇	
五、	一二六〇、〇〇〇	
六、	三〇〇〇、〇〇〇	
七、	四四〇〇、〇〇〇	
八、	一〇〇〇、〇〇〇	
九、	三〇〇〇、〇〇〇	
十、	六五〇〇、〇〇〇	
十一、	五〇〇〇、〇〇〇	

(會場坪數約五十萬坪)
(建物坪數三萬七千坪)

支出品及參加國勸誘費

支雜費

支豫備費

計

一、	〇〇〇、〇〇〇	圓
二、	〇〇〇、〇〇〇	
三、	〇〇〇、〇〇〇	
計	二〇〇〇、〇〇〇	

收入之部

一、割増金附前賣入場券發行實收入

二、關係府縣市ノ支出金及其ノ他ノ寄附金

三、協會繰入金

四、場所使用料其ノ他ノ收入

計

一、	一五〇〇〇、〇〇〇	圓
二、	二五〇〇〇、〇〇〇	
三、	五〇〇〇、〇〇〇	
四、	二〇〇〇〇、〇〇〇	
計	二〇〇〇〇、〇〇〇	

(備考) 割増金附前賣入場券發行實收入ハ發行總額二〇〇〇〇、〇〇〇

圓ノ中發行諸經費五〇〇〇、〇〇〇圓ヲ控除シタルモノトス

割増金附前賣入場券發行收支概算

發行總額		發行經費					事務費
二〇〇〇〇〇〇〇圓		五〇〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇〇	七〇〇〇〇〇	四〇〇〇〇〇	三五〇〇〇〇	一二〇〇〇〇
		總額ノ一割五分					
		總額ノ三分五厘					
		三五〇〇〇〇〇通					
		一通一〇錢					
		(1) 人件費 一年二〇〇〇〇圓					
		(2) 旅費、通信運搬費					
		一年一〇〇〇〇圓					
		計 三〇〇〇〇圓					

發
行
實
收
入

豫
備
費

公
告
費

一		
五		
〇	一	二
〇	八	五
〇	〇	〇
〇	〇	〇
〇	〇	〇
〇	〇	〇
〇	〇	圓

右ノ四ヶ年分

一回

二五〇〇〇〇圓十回分

紀元二千六百年記念日本萬國博覽會入場券前賣方法案

一名 稱 日本萬國博覽會割増金附入場券

一、賣出(發行)總額 二千万圓

一、前賣入場券 十圓券(入場券十二枚ヲ以テ一券トス)及五圓券(入場

券六枚ヲ以テ一券トス)トス

一、割増金總額 三百万圓以内(發行總額ニ對シ一割五分以内)

一、前賣期間 昭和十二年四月ヨリ

備考 (1) 一圓券ノ前賣入場券ヲ發行スルノ可否ニ付テハ考慮スルコト

(2) 入場料ハ大人一人ニ付一圓トス

東京市負擔ノ道路橋梁等土木費支出見込額

道路工事費	三、六六二、〇〇〇	圓
橋梁工事費	三、六九五、〇〇〇	
下水工事費	一、三五〇、〇〇〇	
工事設計監督費	三五三、〇〇〇	
計	九、〇六〇、〇〇〇	

「備考」 別ニ電氣水道工事費トシテ約二、三〇〇、〇〇〇圓
支出ノ見込

參照

(報告案(二))

日本萬國博覽會ノ開催ニ關スル件

昭和十一年三月十三日紀元二千六百年
祝典準備委員會總會ニ於テ
議決
同日内閣總理大臣ニ報告翌十四日
各省大臣ニ通牒

(昭和十一年二月七日印刷)

日本萬國博覽會ノ開催ニ關スル件

紀元二千六百年奉祝記念事業ノ一トシテ帝都ヲ中心トスル日本萬國博覽會ヲ開催スルヲ適當ト認ム

一、主催者

東京市又ハ日本萬國博覽會協會ヲ主催者トシ且政府ニ特別ノ職員ヲ置キ積極的ニ指導監督援助ヲ爲スコト

一、補助金

本博覽會ノ重要性ニ鑑ミ相當ノ補助金ヲ國及關係府縣市等ヨリ交付スルノ要アリ

一、割増金附前賣入場券

財源確保ノ必要上割増金附前賣入場券ヲ發行スルノ要アリ

(參考)

日本萬國博覽會ノ主催者ニ關スル要綱案

第一案(市營案)

- 一、博覽會開設ノ主體ハ東京市トスルコト
- 一、博覽會ノ事務一切ヲ執掌セシムル爲東京市ニ博覽會事務局ヲ設置セシムルコト
- 一、博覽會ニハ總裁、副總裁及會長ヲ置キ事務局總長以下ノ職員ヲ整備スルコト
事務局總長ハ之ヲ專任トスルコト
- 一、博覽會開設ニ關スル根本方針其ノ他重要ナル事項ヲ審議セシムル爲事務局ニ參與ヲ置クコト
事務局總長及經理部長其ノ他之ニ準ズル重要人事ハ參與ノ議ヲ經ベキモノトスルコト
- 一、參與ハ關係各廳官公吏員其ノ他學識經驗アル者ヲ以テ之ニ充ツルコト
參與ノ人選殊ニ參與會議ノ議長ノ決定ニ付テハ參與會議ニ權威ト獨立性ヲ附與スル爲特ニ深甚ノ考慮ヲ拂フコト
- 一、博覽會事務局ハ其ノ事務ノ實施ニ當リ東京市其ノ他關係團體ヲ以テ組織スル博覽會協贊會ト連絡ヲ保ツコト

第二案(協會經營案)

紀元二千六百年記念日本萬國博覽會協會ニ於テ左記要綱ニ依リ博覽會ヲ開設スルコト

記

- 一、協會ハ東京府、東京市、東京商工會議所、東京實業組合聯合會、日本產業協會、博覽會俱樂部、神奈川縣、横濱市、横濱商工會議所及横濱實業組合聯合會ヲ以テ之ヲ組織スルコト
- 一、協會ハ之ヲ法人トスルコト
- 一、協會ニハ總裁、副總裁及會長ノ外事務總長其ノ他ノ職員ヲ置クコト
- 一、博覽會開設ニ關スル事業計畫ノ決定及變更、收支豫算並協會役員ノ任免ニ付テハ主務大臣ノ認可ヲ受クルコト
- 一、協會ノ借入金ニ付テハ東京市ガ保證スルト共ニ協會解散ノ場合ニ於ケル損失ハ東京市ニ於テ負擔スル等適當ノ方策ヲ講ズルコト

内甲第一三三號

案起

昭和十一年五月二十日

裁可 昭和十一年五月二十日 施行
決定 昭和 年 月 日

昭和十一年五月二十日 公布

内閣總理大臣

齋藤

内閣書記官長

齋藤

内閣書記官

川島

外務大臣

齋藤

陸軍大臣

齋藤

文部大臣

齋藤

逓信大臣

齋藤

内務大臣

齋藤

海軍大臣

齋藤

農林大臣

齋藤

鐵道大臣

齋藤

大藏大臣

齋藤

司法大臣

齋藤

商工大臣

齋藤

拓務大臣

齋藤

別紙兩院ノ議決ヲ經タル職業紹介法
中改正法律案ヲ審査スルニ右ハ貴族院

議長上奏ノ通裁可ヲ奏請セラレ可然ト認ム

上諭案

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル職業紹介

法中改正法律 ヲ裁可シ茲ニ之ヲ

公布セシム

御名 御璽

昭和十一年五月二十六日

内閣總理大臣

内務大臣

法律第十二號

(上奏、通)

貴族院ハ兩院ノ議ヲ經タル
職業紹介法中改正法律案
ノ裁可ヲ奏請ス

昭和十一年五月二十二日

貴族院議長公爵近衛文麿

